

諏訪地方の 経済概況 速報

2020.10

2020年9月末調査／2020年10月25日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

諏訪地方の概況

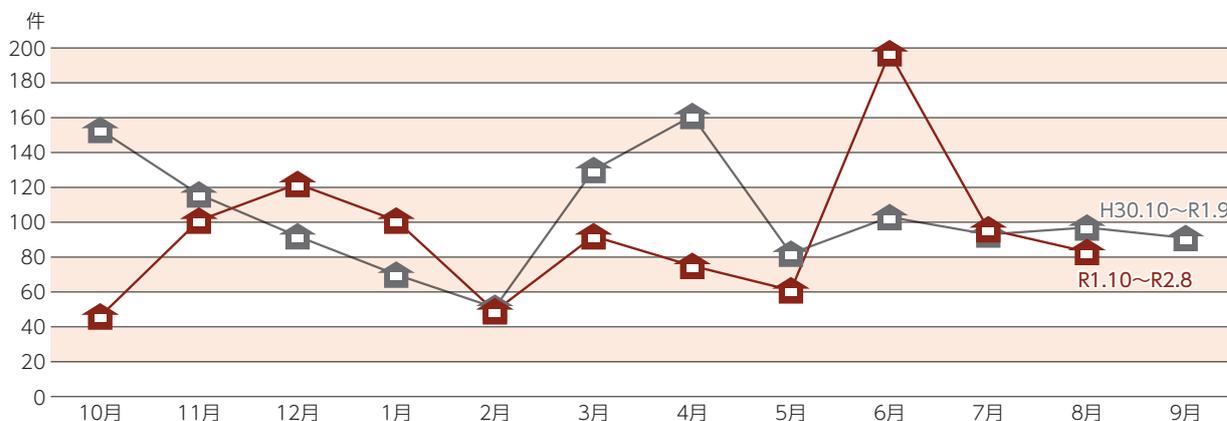
政府が公表した9月の月例経済報告は、国内景気について「持ち直しが見られる」の総括判断を維持した。個別判断では、個人消費と設備投資を下方修正し、輸出と生産の判断を引き上げた。米国や中国など海外経済が持ち直し、内需の停滞を外需が補っていると判断した。ただ、半導体などの技術をめぐる米中対立が深まり、その影響が懸念されている。内閣府発表の8月の景気動向指数による基調判断も13ヵ月ぶりに「悪化」を脱した。海外経済の回復を受け、輸出や生産が持ち直した反面、国内の個人消費や設備投資には停滞感が強く、指数の水準はなお低い。

諏訪地方でも低調に推移していた観光業が、GoToトラベル効果でシルバーウィークに予想を超えるにぎわいを見せるなど、回復の兆しが見られた。製造業も新型コロナウイルス感染拡大に加えて、米中対立の懸念などで明暗はあるものの、受注量が増加見通しの企業が増えつつある。

(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実数	前年同期比	
有効求人倍率【8月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.03倍	△0.50ポイント	
手形交換高【9月】(諏訪手形交換所扱)	枚数	3,242枚	△1,503枚	
	金額	5,091百万円	△1,467百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚	0枚
		金額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【9月】(諏訪地方合計)		1,007件	△11.7%	
新設住宅着工戸数【2020年4月～8月】(諏訪管内)		501戸	△6.5%	

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



製造業

「半導体、一部自動車関連が回復傾向」

米国や中国の経済活動の回復ペースが速まり、日本の輸出も持ち直している。特にメーカーによって差はあるものの、米国向け自動車関連材が堅調。一方、米政府は、輸出管理法で輸出を制限する対象に中国通信機器大手のファーウェイを加え、米国製の半導体の輸出を禁止。2020年5月には外国製でも米国の技術を使う場合は禁止を表明し、9月には汎用品も禁止する措置が発効した。日本工作機械工業会が発表した9月の受注額は、国内向けが22ヵ月連続で前年を下回る一方、海外向けは中国向けがけん引して2年ぶりにプラスに転じた。5Gの実用化や世界的なテレワークの増大で、通信用サーバーで使う半導体などの需要が増えている。

諏訪地方では、総体的には低調に推移する中で、半導体関連や一部自動車関連などで、新型コロナウイルス感染拡大の影響で落ちた受注が、戻り始めていると感じる企業が増えている。

金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	取引先によって格差が大きい。生産が増加し週休3、4日を通常勤務に戻した企業の一方で、依然低迷したままの企業がある。受注量が減少していたことで競争が激化し、値崩れも見られる。徐々に見積もりや試作の話が出ているが、全体的にはまだ厳しい状態で推移する見込み。細かい案件が動き出したという感触を持つ企業もあるが、見通しは不透明としている。
一般機械 工作機械、専用機械、省力化機械、検査機械など	工作機械は、海外経済が停滞し海外比率が低下していたが、9月になって海外向け受注が増加した企業がある。また、自動車部品関連向けはガソリン車用で動きが出てきたが、トラックなどのディーゼル車関連は依然、停滞している。省力化機械は、取引先の計画休業が縮小して稼働日が増え、発注までの時間が短縮されてきている。反面、大手取引先で営業訪問が現在も制限されている企業がある。新型コロナウイルス感染拡大と米中貿易摩擦による経済への影響が懸念材料となっている。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	5G関連の半導体創造装置部品の受注は安定しているが、米中対立による中国向けの受注減を懸念する企業が多い。現状では中国メーカーが在庫確保に向けて、受注量を増やしているため、増産が続いている。EV電池も好調を維持している。印刷機部品は減少傾向で推移し、プリント基板も低調な動きとなっている。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車部品関連は、メーカーや部品によって受注状況に差がある。エンジン部品は復調しつつあり、製造ラインの稼働状況がコロナ前に戻っている部品がある。サプライチェーン対策で在庫確保を図る動きもある。新型コロナウイルスの影響で消費低迷やメーカーの生産調整の長期化も懸念される中で、EV関連は堅調な動きとなっている。新型コロナウイルスを契機に、公共交通機関から自転車への移行が進められている欧州では、高級自転車向け部品が好調。船外機は休業の反動や北米需要の戻りがあり繁忙となっている。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	光学機器は新型コロナウイルスの影響で消費が低迷しているが、中国、英国、米国で消費回復傾向がある。欧州は低調のまま。業界全体ではミラーレスの交換レンズ需要が相変わらず低調。自動車関連のレンズは回復見込みがある一方で、スマホや携帯のレンズはコストダウン要請がある。医療関係やATM監視カメラなど高性能なレンズの受注は好調に推移している。
製造業全般	新型コロナウイルスによる内食需要の高まりで、漬物は好調を維持している。原材料の葉物野菜の仕入れ価格が落ち着いた。ただ、自然災害が恒常化し、原材料確保は課題となる。みそは、猛暑の8月から気温が下がり、需要期に入った。新型コロナウイルスの影響はなく例年のトレンド通り、生みそや即席みそ汁、加工食品などが好調。寒天は都市部のデパートや小売店への販売は堅調だが、道の駅や土産品店への販売量は減少している。

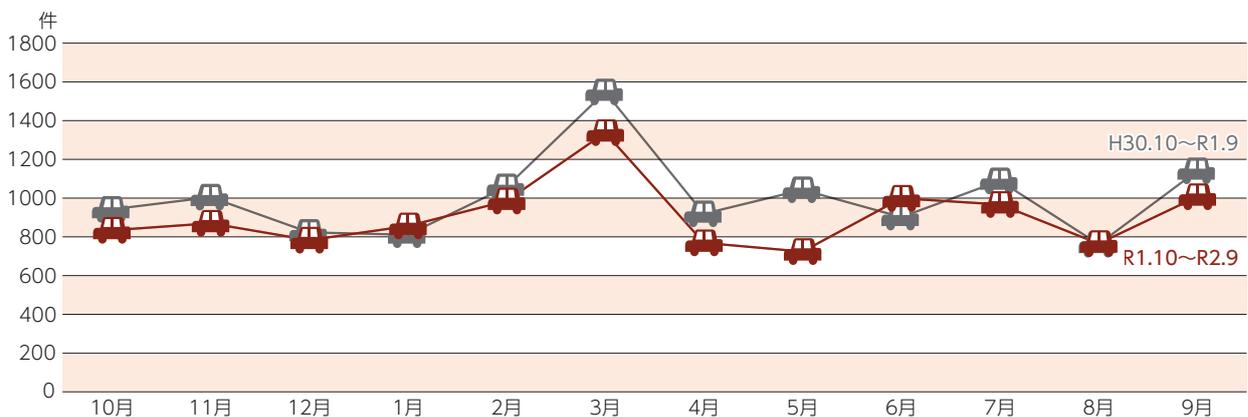
商業

「やや底打ち感も依然厳しい状況続く」

昨年9月は、多くの業種で消費税率引き上げ前の駆け込み需要があったが、今年は一部売り上げが伸びた業種があるものの、総体的に前年同月比は減少傾向となっている。それでも9月に入って、新型コロナウイルスの影響が一服し、買い物を控えていた消費者が、少しずつ来店頻度を増やすなど消費に持ち直しの動きが出ている。また、たばこや第三のビールの値上げを前にした駆け込み需要があった。ただ、底打ち感が出始めたとはいえ、大人数の宴会や集会が望めず、新作花火大会などのイベントも中止となり、回復はまだ低水準で厳しい状況が続いている。こうした中、各地のプレミアム商品券などの支援策の利用が増えている。

大型店	地域行事が中止となり、オードブルなどの関連商品は低調だったが、「プレミアム付商品券」効果とまとめ買いの傾向で売上が増加した。秋の味覚の果物、特に高級ブドウの売行きが好調だった。
食料品	キノコは雨量が少なく不作。マツタケは平年の2倍～2.5倍の価格となっている。米は外食産業の落込みで価格はやや下落するとみられる。
家電	巣ごもり需要で調理家電やフィットネス関連家電が売れ筋となっている。給付金効果があった冷蔵庫や洗濯機など白物家電は下降気味となった。
自動車	諏訪地方の9月の車庫証明件数は1,007件で、前年同月比11.7%減少した。
飲食店	外食控えの消費者心理があり、総体的に苦戦を強いられている。今後も忘年会などの宴会が前年並み水準に回復することは困難とみられる。
生花店	ネット関連で視聴者プレゼントに使用する大口受注がある。ブライダルは低調だが、感染防止対策をして、披露宴を行う式場が若干増加している。
エネルギー販売	ガスは、家庭用は前年同月比増加したが、商業、工業用の販売量が減少している。ガソリンは県外車の減少で販売量が低下している。
靴店	旅行に行く人が少なくウォーキングシューズよりスニーカーやサンダルが好調。
タクシー	3月ごろから前年同月比で、走行距離、運行回数、輸送人数、収入とも大幅減少が続いているが、GoToトラベルでわずかながら回復の兆しがある。
書店	業種的にコロナ禍で業況が上振れしている。ステイホームで文芸書、小説、コミックを続けて読む習慣ができ、売れ行きが好調。4連休があり、地図やガイドブック関係も売れた。相変わらず「鬼滅の刃」の人気の高い。

■車庫証明件数の推移



観光・サービス業 「支援策でやや回復の動き」

諏訪湖周辺の施設は「密」を避けるため、食事なしの素泊まりプランが増加している。GoToトラベルに東京が追加されることから、各施設の予約状況は良好。10、11月は総体で宿泊人数が前年同期比マイナス20%以内になるとみられる。ただ、忘年会などの日帰りの宴会は期待できず、このままだと12月は相当な落ち込みになることが予想され、越冬資金の不足も懸念される。高原各地は4連休を中心ににぎわった。蓼科は前年同月比90%～100%超えの売上となった宿泊施設が多く、富士見方面では過去10年で最高の来客数となった施設もある。一方、諏訪地方では、まだ旅行自粛の機運が強く、催行最低人数が満たせないなど旅行業者にとっては厳しい状況が続いている。

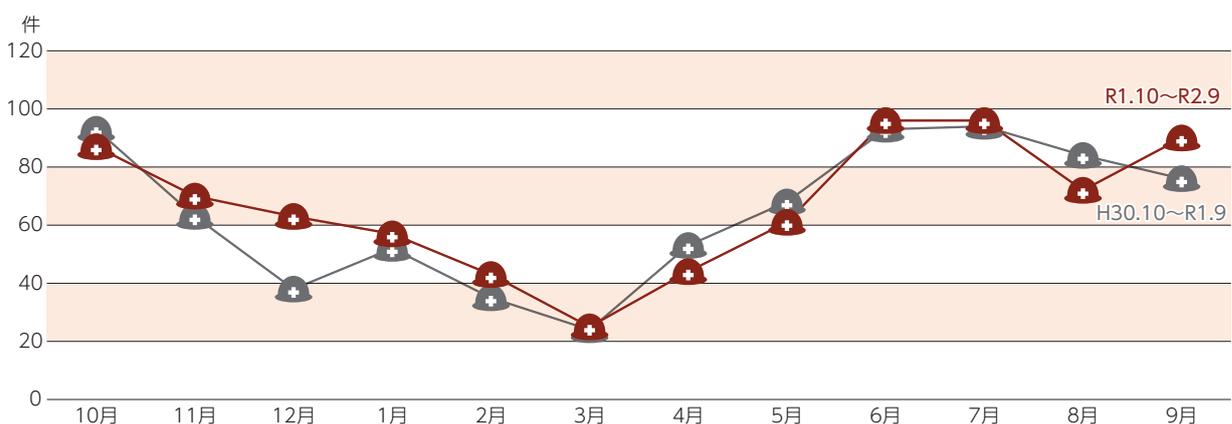
上諏訪温泉	前年同月比で減少している施設がほとんどだが、GoToトラベルは東京以外の関東圏、東海方面から集客した。9月に3回行った遊覧船に乗って花火を見る企画が好評だった。東海方面の修学旅行を取り込んだ施設もある。
下諏訪温泉	GoToトラベルは週末に偏り、効果は限定的で、平日の動きが少ない傾向が続いている。宴会需要もまだ回復が見られない。
蓼科・白樺湖・車山・富士見等	蓼科はシルバーウィーク中は今年一番のにぎわいで、道の駅「ビーナスライン蓼科湖」の駐車場が満車となった。修学旅行を取り込んだ施設もある。「密」を避けた平日の飛び込み客も見られた。
諏訪大社	上社・下社合わせた9月の参拝者数は約6万1千人。前年同月比では約1万7千人、22.3%減少した。

建設業 「長梅雨の影響で一部工事の遅れ」

9月の市町村からの受注工事は合計90件、805百万円となった。前年同月に比べ件数は14件増加し、契約金額は518百万円減少した。国、県関係工事の2020年4月～9月の累計公共工事（地元業者受注分）は前年同期に比べ件数は減少したが、契約金額は増加している。民間工事は、諏訪地方の8月の新設住宅着工戸数が83戸で、前年同月に比べ14戸減少（△14.4%）した。2020年4～8月の累計では501戸で、前年同期より35戸減少（△6.5%）している。長梅雨の影響で工事の遅れがある。

公共工事	9月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、国関係1件、諏訪建設事務所10件、諏訪湖流域下水道事務所1件、諏訪地域振興局農地整備課1件、同林務課1件、県警察本部2件、その他2件の18件で、契約金額は1,257百万円だった。2020年4月～9月の累計は84件5,322百万円で、前年同期比で件数は14件減少、契約金額は81百万円増加（1.6%）した。市町村からの9月の受注工事は、建築工事3件108百万円、土木工事および下水道工事65件520百万円、その他工事22件177百万円だった。
民間工事	諏訪地方の前年同月と比べた8月の新設住宅着工戸数は、利用関係別で「持家」は6戸減少の55戸、「貸家」は6戸減少の26戸、「分譲」は2戸減少の2戸、「給与」は同数の0戸だった。長野県内の8月の新設住宅着工戸数は1,108戸で、前年同月比2.5%増加した。持家は11ヵ月連続の減少、貸家は2ヵ月連続の減少、分譲は6ヵ月ぶりの増加となった。

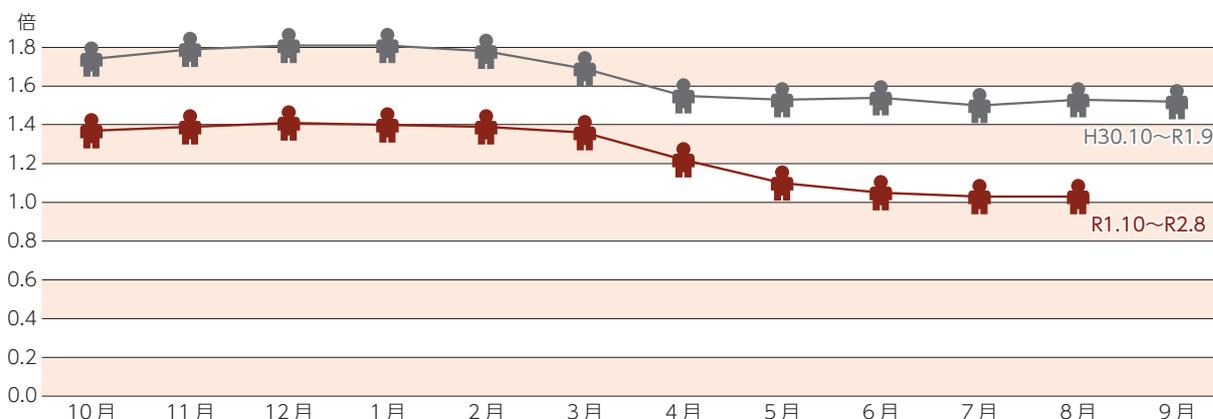
■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



諏訪地方の8月の有効求人倍率は、前年同月を0.50ポイント下回り、前月と同率の1.03倍となった。1倍以上は77ヵ月連続しているが、17ヵ月連続で前年同月を下回っている。長野県平均は、前月を0.01ポイント下回る0.98倍で、2ヵ月連続で1.0倍台を割り込んだ。全国平均も前月を0.04ポイント下回る1.04倍だった。完全失業率は0.1ポイント上昇の3.0%で、2017年5月以来3年3ヵ月ぶりの3%台。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,139人で、前年同月比451人減少(△28.4%)した。求人の要因別は「継続する人員不足」「業務量増大」「欠員補充」「創業・新分野展開」の順。業種別前年同月比の新規求人数は、増加した業種がなく、飲食店・宿泊業で54.1%、その他のサービス業で2.5%、建設業で1.3%減少した。新規求職者数は627人で、前年同月比20人減少(△3.1%)した。1件10人以上の人員整理は1件だった。事業主都合による雇用保険資格喪失者は26人で、前年同月より2人増加し、前月より29人減少した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 新型コロナウイルスの影響は収まっていないが、取引先は無理やりにでも通常モードに戻したいという意向で動き出している(金属製品加工業)。
- 販路開拓の必要性はあるが、主力取引先の受注が回復した場合に最優先となるため、積極的に拡充できない(一般機械製造業)。
- 経済の動きに合わせて人の動きも活発になっている。コロナ対策の考え方は国内では取引先の地域によって温度差が出ている(輸送用機械製造業)。
- 海外は全体的にファーウェイショックの影響が大きい(電気機械製造業)。
- 勤務体系を6月から4勤3休としており、持続化給付金や雇用調整助成金により年末まで耐えるしかない(精密機械製造業)。
- GoToイートはトラブルが懸念されているが、即時対応できるよう登録準備する(飲食店)。
- 10月からのGoToトラベルは予約が好調。例年以上の売上を確保できる可能性がある(観光業)。
- コロナの影響で進んでいなかった見込み顧客との商談が、例年通りに戻りつつある(建設業)。

「GoToトラベルキャンペーンだけで苦境を脱することができるか」

新型コロナウイルスの影響で、4-6月の実質GDPが年率28%という空前の落ち込みを記録した後、景気が本当にわずかずつですが、回復してきています。しかし、業種によるばらつきはとても大きいです。旅行業界もそのひとつです。

諏訪には信用金庫さんの年末の講演会で毎年訪問させてもらっていますが、諏訪地域も観光が大きな産業だと感じています。本稿では、「GoToトラベル」キャンペーンに関連して、旅行業界や日本経済の現状の説明をします。

私自身はこのところ出張が戻ってきており、GoToトラベルの「威力」を肌で感じています。



テレビの生放送番組に月に2回出演し、当社のセミナーも開催していることもあり、大阪へのお出張が一番多いのですが、8月までは、普段泊まるホテルは閑散としていました。私はだいたい同じホテルに泊まり、ほぼ同じ時間（7時半ころ）に朝食会場に行くのですが、8月までは、朝食会場も閑散としており、何度か泊まったうちの1日は、その時間帯で私一人ということもありました。

しかし、9月に2日間泊まったときには、朝食会場は、結構にぎやかで、とくに年配の夫婦や女性たちが仲間同士で来ているのが目立ちました。ホテルの人に聞くとGoToトラベルの影響が大きいとのことでした。10月に入り、博多にも出張したのですが、駅前のホテルは結構にぎやかさを取り戻してました。

表面的には少し活況を感じますが、本当にこれで旅行業界は息を吹き返すのでしょうか。さらには、日本経済を持ち上げる力があるのでしょうか。

表は「旅行取扱状況」の数字です。観光庁が毎月発表しているものですが、コロナの影響が深刻化し始めた2月ころから、前年比で大きく落ち込むようになり、とくに緊急事態宣言が出た4月以降、6月までは90%以上減少するといった危機的状況でした。7月も、少しは戻したものの、やはり極めて少ない状況です。旅行会社にとっては、売上が「蒸発した」と言ってもいいような水準です。

■旅行取扱状況

						前年比 (%)	
2020年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
-4.8	-18.9	-71.4	-95.5	-97.6	-92.9	-87.4	

(出所) 観光庁

昨年には3200万人に達したインバウンド旅行者も、今年はオリンピックも予定され4000万人を目指していましたが、4000万人どころか、昨年に比べ、99%減という月が続き、訪日客も消失している状況です。

こういう状況に対し、政府は、GoToトラベルで旅行業界の苦境を救おうとしているのが現状ですが、果たしてどれだけの効果があるのでしょうか。

インバウンドもなし、海外旅行もほぼ消滅した状況で、大手だけでなく、中小の旅行会社はとても苦しいことは容易に想像できます。また、国内のホテルなども、Go Toで一息はつけたと思いますが、先行きは結構厳しい可能性があります。

私が危惧しているのは、GoToトラベルキャンペーンで、国内の旅行者が増えても、GDPが大幅に減少し、給与所得が減る懸念の中で、それがいつまで続くのかということです。事実、働く人一人当たりの給与額を表す「現金給与総額」は新型コロナウイルスの影響が大きく始まった4月以降、前年比でマイナスが続いています。

政府が、国民一人当たり10万円を給付し、年金生活者などは、そのままそれが所得の上乗せとなりましたが、ひょっとしたらそれを使い切った時には、GoToトラベルの勢いも止まるのではないかと危惧しています。

「GoToイート」も問題はあるものの始まりましたが、この危機的状況では、政府はもっと積極的な経済対策を打つべきだと考えます。また、観光客の誘致を積極的に行うとともに、私からのお願いですが、地元のホテルや旅館をできるだけ使ってください。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>